

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント  
 コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>

代表者 (役職名) 代表取締役副会長 (氏名) 北畠 光弘

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室 広報・IRチーム部長 (氏名) 工藤 正尚

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

TEL 03-5530-3055

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	40,304	8.7	7,803	△16.8	7,649	8.3	4,303	△85.6
22年3月期第3四半期	37,082	148.3	9,376	—	7,064	—	29,931	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	54.03	—
22年3月期第3四半期	374.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	148,435	122,895	82.7	1,548.35
22年3月期	144,616	127,314	87.9	1,596.03

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 122,766百万円 22年3月期 127,178百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

平成23年3月期末の配当予想につきましては未定としております。

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,400	22.5	6,100	14.2	6,100	430.0	4,100	△78.0	51.71

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)  
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 80,195,000株 22年3月期 80,195,000株  
② 期末自己株式数 23年3月期3Q 905,877株 22年3月期 510,405株  
③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 79,652,924株 22年3月期3Q 79,930,966株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、アジアや資源国を中心として、リーマンショック以前の経済水準まで回復を果たした国もありましたが、生産や消費が、先進国から新興国へとシフトしている動きもあり、先進国の経済回復は依然として緩やかなものとなっています。わが国の経済は、これまで景気回復を牽引してきた輸出が円高や不安定な世界情勢によって不透明感を見せており、デフレや雇用情勢の厳しさなどもあり、「足踏み状態」となっています。

当社グループの主力事業のひとつであるパチスロ・パチンコ事業では、一般的に市場でのパチンコ機の設置台数の減少が続いている反面、パチスロ機の設置台数は増加に転じています。

そのような中、当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、パチスロ機4タイトル、パチンコ機2タイトルを市場投入いたしました。なかでも昨年12月発売の大型タイトル『緑ドンV I V A！情熱南米編』が好評を博し、12月のみで約60千台の導入となり、第3四半期累計で、パチスロ・パチンコ機6タイトルを市場投入し、合計で約104千台を導入しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は40,304百万円（前年同期比 8.7%増）となりました。営業利益については、新筐体の導入に伴う一時的な原価率の上昇もあり、7,803百万円（前年同期比 16.8%減）となりました。

営業外損益としては、フィリピンにおいてペソ建資産を米ドル建債務にて調達している中で、フィリピンペソ高・米ドル安が進展したこと、また米ドル建の借入金について円高ドル安が進展したことにより、第3四半期累計にて為替差益1,386百万円が発生しています。（為替差益の発生については、別途本日付で開示しております「営業外収益（為替差益）及び営業外費用（持分法による投資損失）の発生に関するお知らせ」をご参照ください。）他方、営業外費用として持分法による投資損失1,357百万円を計上しています。この理由として、当社グループが筆頭株主として約19.8%を保有する持分法適用関連会社ウィン・リゾーツ社（NASDAQ:WYNN）は債務の再構築に伴い約67百万ドルの費用を計上したことにより、少数株主持分控除後の第3四半期までの累計四半期純利益が約46百万ドルに留まりました。このうち当社グループの持分相当額（約9百万ドル）から、同社による過去の自己株買いに伴い当社が行う株式評価の洗い替えによる償却負担額（第3四半期累計で約26百万ドル）を差引いた額（約17百万ドル）を持分法による投資損失として計上したことによります。

これらの結果、経常利益は7,649百万円（前年同期比 8.3%増）、四半期純利益は4,303百万円（前年同期比 85.6%減）となりました。四半期純利益が前年同期比で大幅な減益となった理由は2009年にウィン・リゾーツ社が同社マカオ子会社株式を香港証券取引所へ上場し、公募増資を行ったことにより、当社が持分法による投資利益（特別利益）として24,826百万円を計上したことによるものです。

なお、セグメントの業績は以下の通りです。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

#### ①パチスロ・パチンコ事業

パチンコ機の市場においては、昨年のパチンコメーカーによる出玉性能に対する自主規制以降、射幸性の高い魅力のあるタイプが減少していることが、ユーザー離れの一因となり、パチンコ機の設置台数は減少傾向にあります。

それに対して、パチスロ機の市場においては、当社の『緑ドン』シリーズを始めとする、ユーザーにとって非常に魅力ある出玉性能や、飽きさせないゲーム性を持つパチスロ機が登場し始めたことにより、全体的にユーザーが増加し、ホール営業に貢献することとなりました。その結果、パチスロ機への期待感が高まり、パチスロ機の設置台数を増台する事例が増えております。この傾向は今後においても続くものと考えられます。

このような市場環境のもと、当社グループは当第3四半期連結累計期間においては、パチスロ機4タイトルを投入いたしました。

APEC開催に伴うホール様の入替自粛のため、一部先行導入にとどまっていた『出番だ！葉月ちゃん』を10月から本格販売いたしました。

12月には、前作の『緑ドン』の魅力をもとに上回る大型タイトル『緑ドンV I V A！情熱南米編』を市場投入いたしました。この機種においては、10月から計画的なプロモーション活動や展示会を各地で開催し、その魅力ある機械特性から市場注目度が非常に高まり、大きな前評判を作り出しました。その結果、初期ロット・2次ロットは即時完売となりました。

また、パチンコ機としては、10月に『CRミリオンゴッドプレミアムV』のシリーズ機として『CRミニオンゴッ

ド』を投入いたしました。こちらについても多くのホール様から高い評価を頂き、完売となっております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間のパチスロ機の導入台数は約93千台、パチンコ機の導入台数は約11千台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は38,649百万円（前年同期比 10.5%増）、営業利益は12,823百万円（前年同期比 6.2%減）となりました。

## ②その他

当社グループのメディアコンテンツ事業を担うアルゼメディアネット株式会社では、パチスロ機『緑ドンV I V A！情熱南米編』の発売に合わせ、ホール様向け景品各種のライセンス展開や、パチスロ機とのモバイル連動システムの展開を行い付加価値の向上に努めてまいりました。また、iPhone向けのアプリケーションでも3作目となる『アステカ』を10月に配信し好評を得ております。『スーパーリアル麻雀』におきましても他企業様とのコラボレーションによる漫画コンテンツの展開を11月より開始いたしました。

パチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチテレ！」を提供する日本アミューズメント放送株式会社では、日本最大のIPTVサービス「ひかりTV」での番組配信を10月から開始し、契約者数を伸ばしています。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他売上高は、2,004百万円（前年同期比 19.7%減）となりました。なお、営業損失は406百万円（前年同期 営業利益116百万円）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、148,435百万円（前期末比3,819百万円増）となりました。主な増減要因は投資有価証券が23,379百万円減少したものの、現金及び預金が11,589百万円、受取手形及び売掛金が9,199百万円及び有価証券が14,831百万円増加したことなどであります。

負債は25,539百万円（前期末比8,237百万円増）となりました。主な増減要因は支払手形及び買掛金が7,060百万円及び短期借入金が2,262百万円増加したことなどであります。

純資産は122,895百万円（前期末比4,418百万円減）となりました。主な増減要因は、株主資本のうち利益剰余金が4,303百万円増加したものの、自己株式が829百万円増加し、株価や為替などの変動から生じる評価・換算差額等が7,885百万円減少したことなどであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

### ①パチスロ・パチンコ事業

第4四半期においては、12月に導入した『緑ドンV I V A！情熱南米編』の人気とホール営業への貢献度が非常に高く、ホール様からの要望が多いことから、3次ロットの販売を行うことを決定いたしました。

また、1月には、当社オリジナルのキャラクターと演出用リールを搭載したパチスロ機『凄忍』を市場に投入しております。

これらに加え3月には、緑ドンシリーズの大人気サブキャラクター「ビリー」をメインキャラクターとした完全告知タイプのパチスロ機『GETだ！BILLY』の販売が決定しております。この機械はパチスロ機本来の魅力である大当りを楽しむタイプとなります。そのため、専用の新筐体を採用しました。視認性を飛躍的にアップさせたワイドリール、様々な当りの告知方法、ストップボタンの改良等により、すべてのユーザーの皆様へ楽しさを提供できる仕様となっております。

### ②その他

アルゼメディアネット株式会社では、当社グループが持つ資産のみならず、幅広いコンテンツを扱うプロデュース企業として、積極的な事業展開を図り引き続き売上拡大を目指してまいります。特に、今後拡大が予想されるスマートフォン市場を狙ったサービス・コンテンツの準備に取り組んでまいります。

日本アミューズメント放送株式会社においては、2011年7月の地上デジタル放送開始で加速する映像のデジタル化も見据え、番組資産のアーカイブ化を進めております。これらをベースにパチスロ・パチンコの映像を核とした新しいサービス提供企業を目指してまいります。

また、当社グループが筆頭株主として約19.8%の株式を保有するウィン・リゾーツ社は、ラスベガス及びマカオにおいてハイエンド向けカジノリゾートの運営を行っております。マカオのカジノ市場は、引き続き好調に推移しており、昨年1月から12月までのカジノ売上高は、成長著しい中国経済に支えられ、前年比57.8%増となり、過去最高を記録いたしました。

一方、ラスベガスにおいては、ストリップ地区の月間カジノ売上高が前年同月比でプラスに転じる月が見受けられるなど底打ち感が見られますが、リーマンショック以前の水準には遠い状況です。

NASDAQ市場に上場されている同社の株価は、平成23年2月9日時点では、121.53ドルであり、当社グループ持分

(約19.8%)の時価相当額は約2,461億円となっております。当社グループは引き続き、ウィン・リゾート社とのパートナーシップをより一層強化してまいります。

当社グループがフィリピンで手がけているカジノリゾートプロジェクト『マニラベイリゾート』につきましては、平成20年のプロジェクト用地の取得以降、経済特区（ツーリズム・エコゾーン）への認定、外資100%企業によるカジノ事業の運営認可等法制面での問題をクリアし、プロジェクトを有利に推進する条件が整っております。

当社グループは、観光資源豊かで魅力あふれるフィリピンにおいて、内外からの多数の旅行者を魅了するプロジェクトを推進してまいります。

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ②法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

#### ③一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ・会計処理基準に関する事項の変更

##### 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は8百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は142百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は179百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,056	4,466
受取手形及び売掛金	12,061	2,861
有価証券	16,241	1,410
商品及び製品	611	1,272
仕掛品	1,523	1,707
原材料及び貯蔵品	20,253	23,551
その他	2,088	3,130
貸倒引当金	△71	△24
流動資産合計	68,765	38,375
固定資産		
有形固定資産		
土地	33,052	34,196
その他(純額)	8,218	10,079
有形固定資産合計	41,271	44,276
無形固定資産		
のれん	153	263
その他	223	241
無形固定資産合計	376	505
投資その他の資産		
投資有価証券	34,584	57,964
その他	5,794	5,849
貸倒引当金	△2,357	△2,354
投資その他の資産合計	38,022	61,459
固定資産合計	79,670	106,241
資産合計	148,435	144,616

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,018	2,958
短期借入金	5,817	3,554
1年内償還予定の社債	400	400
未払法人税等	2,653	257
賞与引当金	53	179
その他	4,435	7,271
流動負債合計	23,378	14,621
固定負債		
社債	1,300	1,600
資産除去債務	181	—
その他	680	1,081
固定負債合計	2,161	2,681
負債合計	25,539	17,302
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,446	3,446
資本剰余金	7,503	7,503
利益剰余金	140,420	136,116
自己株式	△2,763	△1,933
株主資本合計	148,607	145,133
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3	4
為替換算調整勘定	△25,843	△17,958
評価・換算差額等合計	△25,840	△17,954
新株予約権	128	135
純資産合計	122,895	127,314
負債純資産合計	148,435	144,616



(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	37,082	40,304
売上原価	16,167	21,575
売上総利益	20,915	18,729
販売費及び一般管理費	11,538	10,925
営業利益	9,376	7,803
営業外収益		
受取利息	63	8
受取配当金	7	8
為替差益	474	1,386
その他	93	64
営業外収益合計	638	1,467
営業外費用		
支払利息	856	163
持分法による投資損失	2,065	1,357
その他	28	101
営業外費用合計	2,950	1,622
経常利益	7,064	7,649
特別利益		
前期損益修正益	104	62
貸倒引当金戻入額	131	29
持分変動利益	—	613
持分法による投資利益	24,826	—
その他	12	15
特別利益合計	25,076	720
特別損失		
前期損益修正損	3	—
たな卸資産処分損	111	—
持分変動損失	4	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	134
設計計画変更損失	—	1,008
貸倒引当金繰入額	4	—
固定資産除却損	38	—
その他	13	165
特別損失合計	176	1,309
税金等調整前四半期純利益	31,963	7,061
法人税、住民税及び事業税	1,746	3,028
法人税等還付税額	△75	△207
法人税等調整額	360	△63
法人税等合計	2,031	2,757
少数株主損益調整前四半期純利益	—	4,303
四半期純利益	29,931	4,303

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。